

「ときわp4c」および「ときわ哲学カフェ」の構築にむけた基礎研究

著者	京極 重智, 多田 琴子
雑誌名	神戸常盤大学紀要. 別冊
号	13
ページ	27-27
発行年	2019-10-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1492/00001078/

4-B-6

「ときわ p4c」および「ときわ哲学カフェ」の構築にむけた基礎研究

京極重智¹⁾多田琴子¹⁾

本研究では、神戸常盤大学の実情に沿った「p4c (philosophy for children : 子どもの哲学)」や「哲学カフェ」をつくるため、それらの実践方法を模索・改良し、さらに実践が及ぼす効果を明らかにする。

「p4c」や「哲学カフェ」（以下、「哲学対話」と総称）は、日常生活のなかで生まれる素朴な疑問（たとえば「子どもを産むってどういうこと？」、「人間が生きる意味ってなに？」など）について、参加者と語り合うことで、各自の思考を深めていく実践である。

世界中で広がりながらアレンジされた哲学対話は、とはいえ、あらゆる人びとが参加対象者となりうるという基本的な特徴をもつ。大人だけでなく子どもや高齢者、外国にルーツをもつ人びと、社会的マイノリティと呼ばれる人びとなど、あらゆる人びとがまじりあいながら対話に参加できる。哲学対話のこの特徴をふまえ、本研究は、神戸常盤大学において今後よりいっそう重要となる（１）多世代間の交流と、（２）地域の人びとをつなげる「場」という二つの観点から、哲学対話の有効性と可能性を検討したい。

研究の対象は、本学附属ときわ幼稚園の５歳児、および、本学附属の子育て総合支援施設KITや本学附属の子育て支援センター「ときわんモトロク」の利用者である。現時点で、附属ときわ幼稚園では複数回のp4cを実施予定であり、「ときわんモトロク」でも哲学カフェを実施予定である。また、研究方法としては、文献調査および質的調査（参加者や関係者に対するアンケート調査とインタビュー調査）を行う。

1) 教育学部こども教育学科